

実践する**新**ワークスタイル

実践したワークスタイルを目指すという点は同じ。その実例を紹介しよう。

ワークできる環境は
関係をプラスに
するエッセンス



アマゾン ジャパン

ハードライン事業本部
統括事業本部長

星 健一さん

1967年、横浜生まれ。これまで日系メーカーや米系メーカーで活躍。旧ソ連、東欧、西欧、アジアに赴任。'11年より現職。

部下との会話も
スムーズに運ぶ



海外での駐在経験も長い国際派の星健一さん。デニム姿がクリンなオフィスの雰囲気と馴染み、軽快な印象だが、これまでは意外に保守的なスタイルが多かったのだとか。

「原則スーツという会社が多かったせいもあり、オフィスカジュアルを実践するようになったのは、実はこの会社に入ってからなんです」。

現在、一週間のうちカジュアルが3日、残りの2日をスーツで過ごすという。この日は、デニムにシャツを合わせ、ニットで遊ぶスタイル。

「やはり、気分的にもリラックスできますし、TPOによってドレスとカジュアルを使い分けられるので、気持ちの切り替えやメリハリをつけやすい」。さらに、「我々のような立場になると、服装ひとつとっても部下に与える影響は大きいもの。その証拠に、カジュアルな服の日ほど、部下からの相談や提案が不思議と多いんです。リラックスできるオフィス環境なら、気持ちも和み、仕事の生産性も向上するんじゃないか」

メリハリの利いた服装が
仕事環境を良好に保つ

着楽な装い三ヶ条

- 1 ニット類を使って柔らかさを演出
- 2 デニムにはスエード靴でリラックス
- 3 どこかに色をさしてアクセントを加える

着楽のポイントはココ!



小技を利かせて 品よくリラックス

シャツ袖はM.E.でもよく提案しているカフ見せ技を実践。ロールアップしたデニムには、スエード靴が◎。アマゾン姉妹サイトのジャバリ別注の外羽根ウィングチップ。5万4600円/マークマクナイリー(Javari.jp)